

所在地 山口市中河原町2-11

連絡先 083-922-1236  
info@gift-sato.com

代表 佐藤 英仁

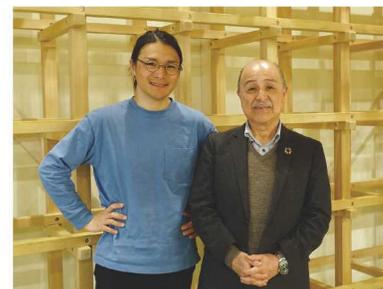
### ●会社沿革

昭和27年 創業  
昭和43年 会社設立  
平成11年 社長交代  
令和元年 楽天市場店を開設  
令和5年 学童保育「Little.Seekers」とギフトショップ「SEPPA SHOP」をリニューアルオープン



ホームページなど

今月号では、株式会社佐藤商会の佐藤英仁代表取締役と、新事業の学童保育「Little.Seekers (リトル・シーカーズ)」のチーフを務められる長男の佐藤史康さんにお話を伺いました。



左から佐藤史康さん、佐藤英仁さん

——まず、リニューアルオープンまでの成り行きを代表取締役の佐藤英仁さんに伺いました。

### ●山口で創業して約75年、記念品等で事業展開

佐藤商会は、先代が山口で創業し、行政・法人・各種団体向けにバッジやメダル、トロフィー、旗、銅像、PRグッズの製造販売と、一般ギフトの店売りで事業を進めて約75年になりました。

ネット販売にも対応する必要があるだろうと、約5年前に「ギフトギャラリー SATO 楽天市場店」を出店しました。オンラインで注文を受け、メダルや楯、トロフィーなどに、ご希望の文字を自社で彫刻して発送しています。



数十秒で同時に複数個への彫刻が可能

自力で始めた初年度は月に1~2件と、ほとんど注文がありませんでした。2年目以降は経営コンサルタントの先生から専門の業者さんを紹介していただき、楽天店舗の基本となるページを作成してもらいました。そうすると、少しずつ注文が増え、前年の売り上げを毎年上回るようになり、売上は最初から10倍程度伸びています。今では北海道から沖縄まで全国にお客様ができました。新たにレーザー彫刻機も導入し、迅速により多くの要望に応えられるよう効率化も図っています。

記念品の贈呈がある大会などでは、「去年もお願いして良かったから」と、実行委員等のメンバーが変わっても繰り返しご注文いただいております。リピーターが顧客の半数を占めています。

### ●コロナ禍で新事業、子どもたちの居場所づくりへ

スポーツ大会や冠婚葬祭など、贈答品等が求められる行事は、新型コロナの影響で軒並み中止、あるいは縮小して開催されるようになり、我々の事業は非常に影響を受けました。

なんとかこの状況を打開しようと、経営コンサルタントの先生から提案された、新たに取り組む事業に対する事業再構築補助金へ申請することにしました。一般ギフトの購入者は女性が多いので、新事業として女性客の関心を引きそうなパン屋や花屋との組み合わせなど考えましたが、付け焼刃で事業を始めると難しいだろうと振り出しに戻りました。

「まだ誰も取り組んでいないことはないか。」辿り着いたのが学童保育でした。実は妻が以前から子育て支援のNPO法人を運営しており、市内で複数の学童保育を請け負っていました。話を聞けば、公立学童だけでは手一杯で学童の待機児童がおり、大人数を受け入れるため、画一的な対応にせざるを得ない状況もあると言います。そして、小さい頃から妻の姿を見ていたためか、長男は大学を卒業した後、保育士として県内外の保育園に勤めていました。将来的に事業を継いでもらう方向でも話がついたので、民間で学童保育を開くことにしたのです。

半年ほど計画を練って申請したところ、1度で採択されました。2022年10月に着工し、翌年3月末に改修が完了。4月にリニューアルオープンしました。

1階のギフトショップは従来の3分の1程度に縮小し、子育て世代の親御さん向けに北欧雑貨のギフト商品を中心に扱うようにしました。空いたスペースには特注の木造ジャングルジムやスラックライン<sup>※</sup>を置いた、子どもたちの身体能力と思考性を育む「うごかす」エリアになりました。

社長室と倉庫があった2階はワンフロアにして、ものづくりでアイデアを具現化するエリア「うみだす」、知識と向き合う環境を提供する自習用学習スペースの「おさめる」となりました。

※二点間に張り渡した細いベルト状のラインの上でバランスを楽しむスポーツの名称



改修した社屋の外観

——続いて、新事業の学童保育「Little.Seekers」について、同施設チーフの佐藤史康さんにお話を伺いました。

## ● Little.Seekers オープンへの想い

子どもたちが育っていく過程には、町を歩いたり、山に登ったりと、実際に体を動かして五感で様々なことに触れ合っていくことが必要だと考えます。昔は当たり前でできていたことですが、社会のあり方が変わり、どこに行っても禁止事項が増え、子どもたちの探求は難しくなりました。事件の情報など大人たちが危機感を共有しやすい社会になり、過剰な安全観から子どもたちの行動が制限される側面が出てきたためです。

そこで、Little.Seekersでは、子どもたちが興味のあることを伸び伸びと探求できる環境をつくることに徹しています。自由に選択しながら失敗や成功を重ねて試行錯誤を楽しめるよう、自発的な遊びから生まれる学びを通して成長できる施設となっています。

例えば、スラックラインに特化した教室であれば、各自の出来で優劣が生まれ、成長を阻害してしまう恐れがあります。しかし、ここには自由な空間があり、自分でやることを決めて一人一人が自分のやりたいことをしています。自分でやると決めた瞬間が最も意欲が高く成長できるタイミングでもあるのです。

## ● 3つのエリアで育む力

Little.Seekersは佐藤商会の新部門として立ち上げた事業です。下校時間から20時まで、市内全域の幼稚園(年長)から小学6年生までを受け入れています。離れた校区から通うお子さんもお迎えもしています。

「運動」「表現」「学習」の3点を成長の基礎になる部分と捉えていて、それぞれを養う3つのエリア(「うごかす」「うみだす」「おさめる」)を設けました。

まず、運動メソッドを詰め込んだ「うごかす」です。私はスラックラインとボルダリングのプロである三由野さんに師事し、身体づくりから、人の心や社会性に関係した「非認知能力」を育てられるようにしています。

脳は外部刺激を受けて育つという研究結果があります。「うごかす」に設置したウレタンマットは、転倒したときに適正な刺激が発生する特別な配合で作られているので、思い切り身体を動かして遊びながら危険予知を身に付けられます。スラックラインも、私がライセンスを取得して設置しており、危ない動きでも重大事故に繋がらない設定にしています。

エリア内の壁をぐるりと囲む木製ジャングルジムは、三由さんとI.D.Worksさんが一緒にデザインしてくださいました。木漏れ日をイメージして、西日が当たってきたとき床に映る陰影まで計算されて作られています。

このような環境で遊ぶことにより、子どもたちは周りを見ながら「危ないよ」と声を掛けられるようになり、ちょうど良い力加減を身に着けられるようになります。

さらに、人間は道具を使う生き物で、作りたかったものを作ろうとすることも脳づくりには重要です。「うみだす」では、あえてカッターやアイロン、電動ドリルなどの道具も置いており、「あれはダメ、これもダメ」ではなく、「チャレンジ道具タイム」という時間を設けてスタッフが見守りながら使えるようにしています。施設内にはルールを記した看板など、子どもたちが問題解決やコミュニケーションを学ぶために作った物がたくさんあります。

そして、「守破離」というように、独創性だけのごいことをしようとしても、基礎ができていなければうまくいきません。そのために学習スペース「おさめる」を設けています。知識を身に着け、さらに自宅で過ごす間の家族とのコミュニケーションの時間を守るためにも、Little.Seekersに来たらず宿題に取り組むことが約束の一つになっています。

施設内では「シーカーズ」という仮想通貨を導入しており、おやつ、ものづくりに使う材料などを購入できます。おやつショップの店員や、お掃除、ペーパークラフトのような遊びながら学べる課題シートに取り組むことで稼ぐこともでき、遊びながら金銭感覚を身に着けられるようになっています。



運動のエリア「うごかす」



表現のエリア「うみだす」



学習のエリア「おさめる」



施設内通貨で買い物できる おやつショップ

## ● 子どもたちの育つ力を引き出したい

最初は「どうしたらいい?」「これやっていい?」と大人に判断を委ねていた子どもたちでしたが、オープンから1年が経過して自主性が伸びました。「子どもが積極的になった」と嬉しそうに話される親御さんも多いです。

口コミで会員数は当初よりも増え、現在は定員に達しています。民間だからこそ、スピード感をもって柔軟に新しいことを取り入れることができおり、この施設の良さを伝えられてきているように感じます。

今後は、習い事や塾に代わる第三の場所となり、行政や大学などと連携しながら、大きく言えば山口市を「世界一子育てがしやすい街」にできればいいと思います。民間でチャレンジすることに面白さや意義があると思うので、Little.Seekersを1つの成功例に、子どもたちのことを真剣に考える施設が広がっていったら嬉しいですね。

また、様々な世界、価値観、体験と出会える「Meet the World!」という習い事的设计も進めています。色々なスキルを持った人たちから多様なワークショップを受けられるような枠組みを考えているところです。

これからも子どもたちが自由にやりたいことに取り組んで、元々もつ自ら育つ力を引き出せる環境づくりに邁進していきます。